

道徳学習指導案

平成16年12月10日(金) 第5校時
第3学年B組(3B教室)
指導者 林 武史

1 主題名 ことばの重み ～ ネット社会の光と影～ 「礼儀」2-(1) 関連項目「公德心」4-(3)】

2 考察

(1) 生徒の実態 (男子12名、女子9名、計21名)

本主題で学習したりネット社会に関わる教材を扱ったりするにあたり、実施した事前調査の結果は以下のとおりである。(11月12日実施 19人)

ア コミュニケーション(会話、電話、手紙、メール)をとる場合に気を付けていることは何か。	名乗る(1) 相手のことを考える(9) 言葉を選ぶ(5) 時間(3) 料金(1) 意見をはっきり言う(1) 明るさ(1) ウソをつかない(1) 楽しさ(2)
イ 不注意な言動で人を傷つけたことがあるか。	ある(16) ・ない(3)
ウ 水上中学校のよさや伝統は何か。	礼儀正しさ(13) 人間関係(4) 一生懸命さ(6) あいさつ(11) 活発な福祉活動(4) 返事(3)
エ インターネットを体験したことがあるか。	ある(19) ・ない(0)
オ 家でインターネットを使うことができるか。	できる(14) ・できない(5)
カ 家でインターネット使用上のルールがあるか。	ある(2) ・ない(12)
キ メールを送受信を体験したことがあるか。	ある(15) ・ない(4)
ク 電子掲示板を見たり読んだりしたことがあるか。	ある(12) ・ない(7)
ケ 電子掲示板に書き込んだことがあるか。	ある(2) ・ない(17)
コ 自分専用の携帯電話を持っているか。	持っている(4) ・持っていない(15)
サ 水上中学校のwebページを見たことがあるか。	ある(14) ・ない(5)
シ 水上町観光協会のwebページを見たことがあるか。	ある(5) ・ない(14)

アやイの質問では、不注意な言動で人を傷つけた経験があったり、コミュニケーションで注意すべきことへの理解が弱い生徒が多いことがわかる。日常の学校生活においても、相手の気持ちを考えることなく、友だちに不愉快な思いを与えたり誤解を招いたりすることも少なくない。したがって、何も知らない中学生がネット社会に飛び出していった場合に、人間関係を崩すことが予想される。手軽に不特定多数の人と交流できるネット社会の利便性の裏側で、軽率な内容のメッセージを送ったり、不愉快なメッセージに対して感情的になってやり返したりすることで、知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまう可能性もある。

ウでは、多くの生徒が水上中学校のよさや伝統を「礼儀正しさ」や「あいさつ」と答えている。入学以来、あいさつのできる学校という伝統を守っていこうと努力してきているが、礼儀の大切さについては理解しているものの、やや形式的なものになりつつあり、時と場をわきまえない言葉づかいや服装・態度をとることがある。

エからシの質問からは、生徒のパソコンに対する興味・関心が非常に高く、インターネットやメール、電子掲示板などを日常的に体験している生徒が多いことがわかる。手軽な操作で未知の分野に踏み込めるところに魅力を感じるのであろう。マウスの操作を器用にこなし、遊び感覚で次から次へと

情報を引き出していく。その一方で、操作を覚えるにつれて、情報を発信することに対する興味も高まってきているように思われる。

本学級の生徒は、これまでの技術家庭科や総合的な学習の時間に、文章や絵を作成したり、表計算ソフトでデータを計算しグラフ化したりと、コンピュータを便利なツールとして活用してきた。また、電子メールの送受信に関するエチケットの必要性や web ページ中での個人情報の扱いに気をつけることなど、インターネットの世界では一般社会以上に気を付けなければならないことも学んできている。しかし、各教科の調べ学習において参考にしてきた web ページは、正確で有益な情報が載せてあると信じている生徒も少なくない。本来、子どもというのは、生まれてから成長する過程の中で、少しずつ世界を広げて新しい情報を得ていくものである。そこで得る情報の多くは、周囲の大人たちが成長に応じて選んで与えたものだった。しかし、インターネットを使うようになって、堰を切ったように情報が子どもの方に一気に流れ込むようになってきた。いとも簡単に情報を入手できるようになった反面、今までなら一生知らずに済むようなことにもふれているのである。

(2) ねらいとする価値について

礼儀の基本は、相手とともによりよく生きるということである。人間関係が希薄になりつつある昨今だが、人は多くの人と関わりながら社会生活を営んでいる。だからこそ、相手との関係や社会生活を円滑にするために、人は礼儀を重んじている。それは、礼儀が、相手を尊重する気持ちの現れであり、一個の人格として認めていることになるからである。あいさつや時と場に応じた言葉づかいなどの礼儀は、小さい頃よりどちらかと言えば形から身に付けていくものと考えられる。しかし、礼儀の本質は心と形が一致することである。人間としての望ましい心を持ち、それを態度や行動に表して相手に伝えること、すなわち人間尊重の精神にあると言える。形となって外に現れる礼儀は、自己に対しては人間として生きる姿勢の問題であり、他者に対しては相手を人間として尊重する表現である。

したがって、人が人と関わって生きていくためには、礼儀や思いやり、協力、寛容な心などは欠かせない。相手の人格を尊重し不愉快な思いをさせないことが、人間が生きていくうえでの大切な礼儀やマナーである。情報社会を生きるには「情報モラル」の向上が必須である。そして、それ以前に大切である「人としてのモラル」について日頃の自身のあり方について考えていかなければならない。

本実践では、学級内・学校内の友人関係にとどまらず、不特定多数の通信相手とのコミュニケーションに関わるモラルに焦点をあてたい。これは、パソコンを操作するのが人間である以上、どんな場合にも必要とされる基本的なモラルの一つであると考えたからである。いかに相手のことを考え、言葉を選びながらコミュニケーションしていくかを、体験を踏まえて共感的に捉えさせたい。そして、この授業を通して言葉や文字の重みと情報モラルについて考えることにより、主題に迫りたい。

(3) 教材について

学校で調べ学習にインターネットを利用したり、家庭でもパソコンにふれたりするなど、日常的にパソコンを利用する時代が訪れてきた。インターネットは、私たちの生活にすっかり溶け込んだ感がある。中でも、web ページは誰でも瞬時に有益な情報を得る方法として注目を集めており、気軽な情報収集・発信の手段として市民権を得ていると言える。自宅にいながら買い物やチケットの予約ができたり、不特定多数の人に対して気軽に情報発信したり、電子掲示板やチャットのやりとりを通して、ネット上でのコミュニケーションをとったりすることも容易になってきた。しかし、web ページに載せられている情報の信憑性についてはテレビや新聞等から得る情報と違い、有益な情報に混じって信憑性に乏しい情報も見受けられる。誤った情報の流出や人を誹謗中傷した内容、著作権の侵害、インターネットを利用した悪質商法など思わぬところで落とし穴にはまる危険性もある。

電子掲示板 (BBS、Bulletin Board System) とは、自分の意見や質問事項を公開の場書き込み、そ

れを読んだ人が反応(レス)を書き込むという形で議論や情報交換が進行するシステムのことである。特定のメンバーと行うメールやリアルタイムで情報交換するチャットと異なり、電子掲示板の多くはメンバー以外にも公開され、一定の期間掲示されているという点が特徴的である。したがって、インターネット上で不特定多数の人々が、同じ趣味や興味を交流し合うコミュニケーションの場になっており、多くの掲示板では突如ある議論や情報交換が行われ、さまざまな成果を上げている。

しかし、最近、電子掲示板に罵倒や意味不明の言葉を書き込むといった掲示板荒らしをはじめ、名誉毀損や侮辱罪に該当する言動や、プライバシーの公開等の不法行為に当たる事件も後を絶たず、大きな社会問題になっている。誰にでも気軽に参加できるシステムであるため、たまたま通りがかった人物が悪意のあるいざづら書きをするといった危険性が常に存在する。また、文字によるコミュニケーションは相手の表情が見えないので、言葉の行き違いからトラブルになることがある。

さらに、情報通信ネットワーク化の光と影の部分を考え、影の部分の部分を薄くしていくのはコンピュータではなく、扱う人間の意識であることを学ぶ。そして、法規と慣習的なルール(ネチケット)を遵守した上で、学校生活のさまざまな場面において、情報を検索・活用・加工・発信・保守する意識と責任を植え付ける導入としたい。また、ネット上のコミュニケーションにおいて、心温まるような事例を紹介し、情報通信ネットワークを使っていい思いをしたり、励まされ助けられたことで「情報通信ネットワークっていいな」と思わせたりするあたにかいモラル教育も展開できると考える。

(4) 本時における話の内容について

授業の中盤および後半において、水上町観光協会の電子掲示板を表示しながら、「温泉表示問題」をめぐる激しい議論が繰り広げられた事例を紹介する。誤った情報の流出や町や団体を誹謗中傷する書き込み内容が、どのような影響を与えるのか、どのくらい人の心を傷つけるのかを知り、併せてその行為の愚かさ気づくようにしたい。

また、授業の終末では、電子掲示板における書き込みによって心が温かくなったエピソードや、親切な書き込みによって観光客のために改善が図れた話などを紹介し、情報通信ネットワークのよさを伝える。

(5) 内容項目の系統

小学校	低学年 2 - (1)	「気持ちのよいあいさつや言葉遣いなどに心がけ、明るく人と接しようとする態度を育てる。」
	中学年 2 - (1)	「礼儀の大切さを知り、誰にでも真心をもって接しようとする態度を育てる。」
	高学年 2 - (1)	「時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。」



中学校	2 - (1)	「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動ができるようにする。」
-----	---------	------------------------------------

第1学年
日常生活における礼儀やあいさつの意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとることにより、明るく健全な生活を築いていこうとする態度を育てる。

第2学年
礼儀の意義を理解して、時と場に応じた適切な言動をとりたいと思う気持ちを膨らませる。

第3学年
社会生活における礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。

関連項目「公德心」4 - (3)
自分本位の考えを改め、正義を重んじ、よりよい社会を実現することの大切さを心に刻む。

(6) 指導の方針および留意点

- ・生徒の実態や指導の流れ、授業のねらいを、講師に対し事前に知らせ、授業計画を相談しながら本時の学習内容を検討する。
- ・事前に『心のノート』を活用し、礼儀についての既習事項を想起するとともに、本時の学習内容について見通しをもてるようにする。また、本時の学習を通して自分の心に残ったことを書き留めておくために事後指導にも役立つ。
- ・モラルの押しつけにならないよう、生徒自身が判断し、情報通信ネットワークの向こう側にいる「人」を意識しながら活動をすすめる。
- ・展開の前半では、偽り情報や誹謗中傷を掲載した電子掲示板を予め準備しておき、web ページに

掲載されている情報はすべて正しいとは限らないことや、ネット社会も実社会と同様に善良な市民に混じって悪意を持つ人がいることを伝える。

- ・展開の後半においては、お互いの書き込みを見合うことによって、相手の気持ちを考えずに自分の都合や思いで行動しがちな心をもっていることを自覚する。また、心を傾けて地域人材による電子掲示板のエピソードを聞き、礼儀や言葉の重み、人とともに生きるあたたかさ等について気づくようにする。講師は自分の経験をいかした話を中心に行い、教師は司会を中心に行う。
- ・終末では、中越地震の際に電子掲示板を通じてボランティアの輪が広がった例や、顔の見えないコミュニケーションにおいても相手を思う気持ちが温かい言葉となって生まれた純愛物語、講師が励まされた電子掲示板の書き込みを紹介することで、目を背けなくなる中傷や差別ばかりではなく、時に実社会を巻き込む有効な利用がなされていることにも注目させたい。
- ・プロジェクトを活用して、用意した web ページがどの生徒にもよく見えるように提示し、生徒の考えをより具体化させる。
- ・web ページの情報が全て正しいものだとは言えないこと実感しやすいように資料提示等をする。
- ・水上町観光協会の web ページを管理する方から、実際に起こっている電子掲示板の問題や便利さについて話を聞き、相手の気持ちを意識したり大切にしたりすることの価値に気づくようにする。

(7) 授業中における生徒指導

多面的な生徒理解の充実

- ・発言やつぶやき、友だちとの言葉のやりとりや表情等、学習中のさまざまな場面における行動観察や事前に行う『心のノート』の記述やアンケート結果から、生徒一人ひとりの思いをとらえる。
- ・学習プリントへの記述内容から、一人ひとりの考えを的確に把握し、それぞれに応じたコメントを教師が記入することによって、教師と生徒の相互理解をより深められるようにする。

自己存在感や自己決定の場を与える工夫

- ・授業への意欲的な参加意識を高められるよう、意見発表などでそれぞれのよさや意欲を認める場面を設定し、自信を持って学習に取り組めるような雰囲気作りに努める。

共感的な理解ができる学級づくりの推進

- ・学習課程の中に発表し合う活動を取り入れることによって、ふれあいの機会を増やし、一人ひとりの意見を大事にしながらか、友だちのよさを見つけられるように配慮していく。

(8) 事前・事後の指導

事前指導

- ・「礼儀 2 - (1) 6/18」「感謝・思いやり 2 - (2) 5/14、9/24、10/8」「公德心 4 - (2) 4/30」に関わる道徳の授業を行い、自分自身を振り返るような話題にふれ、自らの生き方について考えたり、自分以外の人と好ましい関わりをもって生きることを意識したりする機会を積極的に設ける。
- ・『心のノート』を活用し、時と場に応じた礼儀やマナー、言葉づかいについて考える時間を設ける。
- ・短学活や国語科、総合的な学習の時間等において、礼儀やマナーに関する話題にふれておく。

事後指導

- ・学習プリントを回収し、その記述をもとに一人ひとりを励ましたり、支援したりしていく。また、必要に応じて個別指導にも利用していく。
- ・『心のノート』を用いて、本時の学習で心に残った話や活動を書きとめる。
- ・社会生活を営む上で必要とされる約束事やきまり事を理解し、日常生活のさまざまな場面で時と場合に応じた適切な言動を判断して、行動できるようにする。

3 本時の学習

(1) ねらい

電子掲示板の問題点を見たり聞いたり、友だちと議論したりする中で自らの考えをもち、ネットの先にいる相手への礼儀の意義を理解し、ネット社会を含めた時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。

(2) 配当時間 50分

(3) 準備 [教師] ノートパソコン、ワークシート、プロジェクタ、スクリーン
[生徒] 心のノート

(4) 展開

段階	学習活動と主な発問	T1	講師	予想される生徒の反応	時間	支援及び指導上の留意点
導入 情報通信 とコミュ ニケーシ ョン	1. 礼儀やコミュニケーションについて振り返る 水上中学校のよさは何ですか。人と人とがコミュニケーションをとる場合には、どのような手段があるかを考える。			「あいさつ」「礼儀」 「会話」「手紙」 「携帯電話」 「パソコンのメール」	3分	・導入として、アンケート結果をもとに、この時間に取り上げる話題が「礼儀」であることを知らせ、「電子掲示板」の現実からこの問題に対する意識を掘り起こすようにしたい。
<p>卒業まであと何ヶ月ですか。この3年間、みなさんが大切にしてきた水上中学校のよき伝統は何ですか。先日のアンケートで、みなさんが、水中の伝統である礼儀を大切にしていることや、さまざまな方法で人と会話していることがわかりました。日頃、どのような手段でコミュニケーションをとっていますか。また、多くの情報通信手段がありますが、今日の「苦楽楽の時間」は、水上町観光協会よりお越しいただいた講師の方とwebページの「電子掲示板」におけるコミュニケーションについて考えていきましょう。</p> <p>今日の学習課題 「ネット社会におけるコミュニケーションについて考える」</p>						
展開 掲示板の読みかた 掲示板の書き込み 掲示板の書き込み における迷惑行為	2. 電子掲示板によるコミュニケーションについて考える プロジェクタを利用して、スクリーンに水上町観光協会の電子掲示板を表示し、書き込み内容を読む。 実際の電子掲示板に書き込まれた意見に対し、生徒が事前に返答を書いたものをプロジェクタを利用して発表し合う。			「こんなにいろいろな人が書き込んでいるんだ」 「面白い」 「楽しい」 「自分も参加してみたい」 「大好きな水上を侮辱するのは許せない」 「嘘はいけない。水上も素直に謝るべきだ」	37分	電子掲示板を読んで、心を痛めている人の気持ちを考える。 ・感じたことや思ったことを自由に発表できるようにする。また、自分と異なる意見も受け入れられる雰囲気作りを心がける。 ・事前に準備しておいた意見発表をもとに、小グループで話し合う。また、それを全体場で発表し合い、考えを共有する。
<p>「客を馬鹿にしているのか！温泉を水道水にしても所詮、客は分からないと思っているのか？全く理由にならない事をよくもテレビで言えると呆れ返るしか無い。何も水道水を沸かしていると分かれば家で入浴剤を風呂に入れて入ったほうがまだ。今回、水上温泉がした行為は例えるならば、浜名湖産と偽り外国産の鰻を食べさせたり地酒と言いつつ安い酒を飲ます店と変わりが無く詐欺に近い。まして群馬の名湯としてその名は全国区にも関わらずこの様は無い。」という書き込みに対し、自分が投稿するとしたら、どんな書き込みをしますか。事前に考えておいたものを発表してください。また、発表したものに対して、講師の方の経験をいかしたアドバイスや感想をいただきます。 2004.8.13 ナカチャン</p>						
話し合いの感想を講師が語り、講師との交流を図っていく。電子掲示板における実際の迷				「どうしてこんな書き込みをしてくるんだろう」 「人を傷つけるような発		【教師の願い】講師との交流を通して価値を主体的に深め、軽はずみな言葉や心ない文章が、

	<p>惑行為や、傷ついた思い出、迷惑行為がなぜ起こるのか等について、講師の話を書く。</p> <p>温泉表示問題の際の書き込みや読後の思い</p> <p>加熱した議論への対処法</p> <p>講師の話聞いて感じたことや、無責任な書き込みにならないように注意すべきことをワークシートに記入する。</p> <p>実名の記入</p> <p>メールアドレスの記載</p> <p>常に相手の立場になって書き込む</p>		<p>言はいけない」</p> <p>「しっかり名前を書けばいい」</p> <p>「見えないけど、相手のことを考えて言葉を書くようにする」</p> <p>「正確なメールアドレスも記載する」</p> <p>「個人情報を漏らさないように気をつける」</p> <p>「自分の発言には責任を持たなければいけない」</p> <p>「匿名だからって、自分を使い分けるのは変だ」</p>	<p>不特定多数の相手に不快感を与えるということ(ネットの影の部分)を自覚できるようにする。</p> <p>参加する時は、運営方針やルールを守り、自分の発言には責任を持ち、ウソを書いたり、本当かどうかわからないことを正しいことのように書いてはいけないこと、注意深く言葉を選び、相手を傷つけないように心がけること、乱暴な言葉、汚い言葉、人の悪口、人をののしるような言葉を使わないことなどに気づき、考えられるようにする。</p>
<p>終末</p> <p>掲示板の有効な活用例</p> <p>人とのコミュニケーション</p>	<p>3. よりよい活用のしかたについて考える</p> <p>『電車男』の例をもとに、電子掲示板や言葉の力、人間のあたたかい心について知る。町観光協会の電子掲示板における、よりよい活用例を知る。人とのコミュニケーションについて説話を聞く。</p>		<p>「いい話だな」</p> <p>「いい使い方をしていけば、電子掲示板はとてもしいいものなんだ」</p> <p>「相手の顔が見えない言葉のやりとりなのに、何だかあったかいな」</p>	<p>10分</p> <p>電子掲示板の有効な活用の一例として、著書『電車男』を紹介する。人とともに生きることの温かさを伝え、余韻を残す。よりよい活用例を講師自身が語ることにより、電子掲示板の有効な利用方法(ネットの光の部分)に気づき、価値に迫っていけるようにする。</p>
	<p>社会の成長に伴ってコミュニケーションも変化してきました。どうやら私たちは少し危険な方向に進んでいるのかもしれません。しかし、どんなに時代が変わったりコミュニケーションの形が違ってても、「人と人との心の絆、つながり」が原点であることは変わりません。これからの時代を生きる主役として、ぜひ上手に活用していこうとする気持ちを大切にしてください。</p> <p>電子掲示板を通し、言葉の重さや相手への思いやりについて考えたことをまとめる。自己評価・相互評価・授業評価を行う。ワークシートに記入する。</p>		<p>「どんな場合でも相手には誠実でありたい」</p> <p>「どんな場合でも、想像力を働かせて、相手の立場に立って考えていきたい」</p>	<p>【教師の願い】情報通信ネットワークを使って、いい思いをしたり、励まされ助けられたりした事例を紹介し、よさを味わわせたい。</p> <p>・授業についても5段階で評価し、授業改善につなげていく。</p>

(5) 評価

- ・講師の話聞き、学習課題に迫る意欲的な取り組みができています。(活動 の発表や観察から)
- ・インターネット上のコミュニケーションのように、相手が見えない場合も、相手のことを考え、言葉を選ぶことの大切さを自覚しようとしている。(活動 の記述から)
- ・パソコンの先に人がいることに気づき、望ましい関わり方について考えている。(活動 の記述から)

(6) 参考文献 中野独人著『電車男』 新潮社